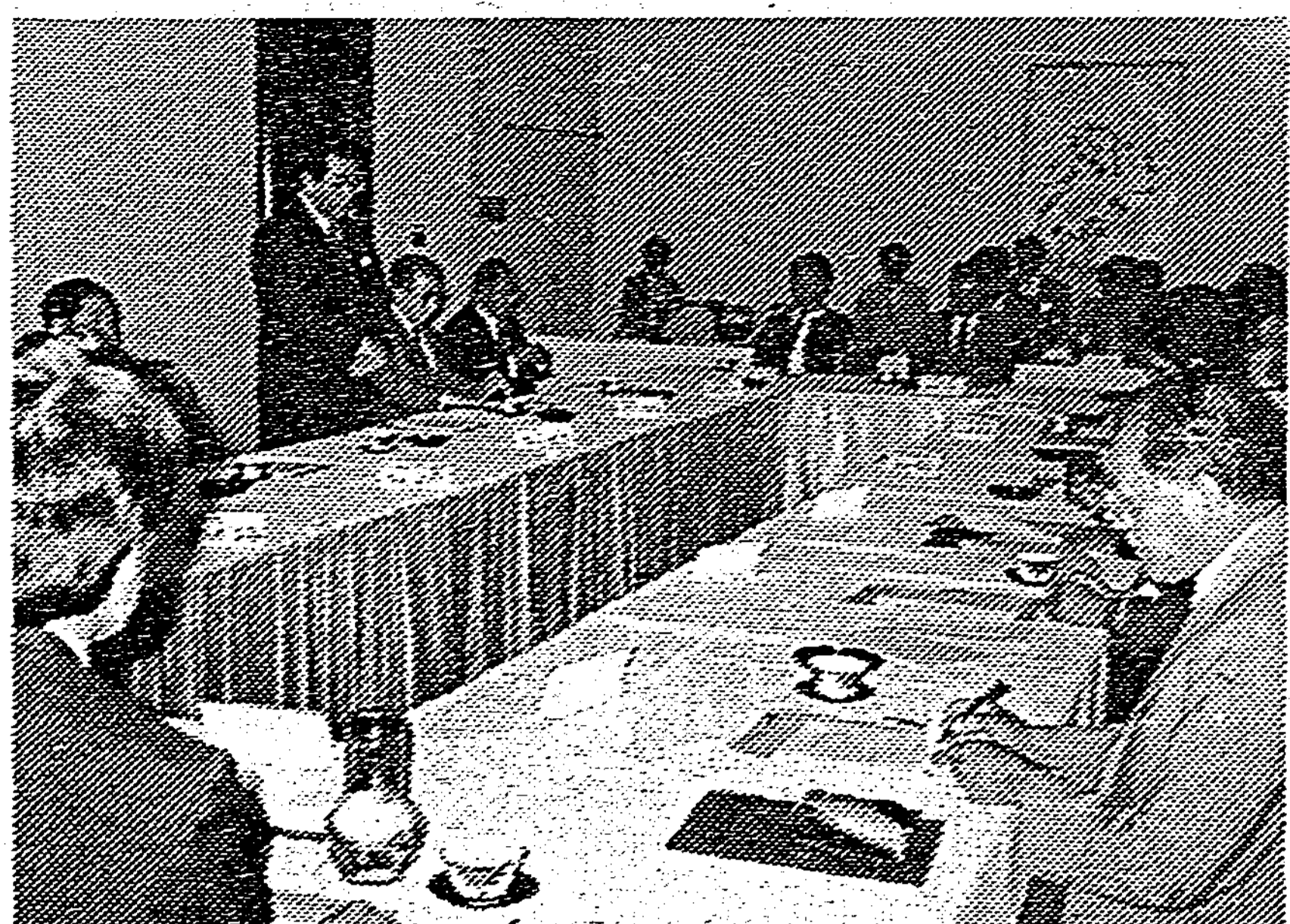




発行所 十勝毎日新聞社 帯広市東三条8丁目 電話-編集部2121、広告部2323、総務部2222 ©十勝毎日新聞社 1986



航空宇宙の現状と未来について懇談する出席者たち

宇宙へ理解深める 学識経験者招き懇談会

航空宇宙について、管内で航空宇宙の現状と未来について、その理解を深めるための懇談会が、三日午後五時から帯広市東三丁目六人の学識経験者を招き、約三十人の出席者らがこれからの宇宙開発、航空宇宙について学んだ。この懇談会は十勝圏振興協議会(会長・田本憲吾帯広市長)が主催、山中龍夫航空宇宙技術研究所所長、松田隆彦前宇宙開発委員会委員長、青原一郎日本大学員、黒田泰弘北海道航空宇宙産業基地研究委員会委員長、航空宇宙についての専門家に出席した。田本市長、建久井幸吉支庁長、野口武雄、大樹町長ら管内関係者の前で

大樹を視察

は田本市長の簡明な答へ、「ロケット打ち上げのためには、その衝撃を考えると、種子島で発射するクラスのロケットで半徑一〇〇程度の打ち上げ場が必要」と考えを述べた。

【大樹】航空宇宙産業基地実現に向けて積極的に誘致運動を展開している大樹町に三日、航空宇宙技術研究所総合研究所の山中龍夫博士ら航空宇宙関係の専門家七人が来町、大正洋行の建設候補地や十勝港などを視察した。現地を視察した一行は、航空宇宙基地の建設地として管内に残されていくのは、「大樹以外にはない」と感想を語り、誘致へさらに弾みをつけた。一行は午前中、広尾町の十勝港へ足を運び、港際の建設状況を視察した後、大樹町に入り、伏見悦夫開発課課長らの案内で大樹から生花にかけての海岸一帯を視察した。現地では地図を見ながら面積、地盤、構築物などについて説明を受けた。